

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

57

人生会議



市民病院
院長 神谷里明

以前にも書きましたが、今後日本は多死社会を迎えます。現在年間130万人の方が亡くなっていますが、2030年ごろには年間160万人の方が亡くなると推計されています。死は誰にでも訪れます。最後を迎えるまでの時間をどこでどう過ごすのか？自分で判断が可能な時期に考えておく必要があります。

今は“終末期”という言葉を用いずに“人生の最終段階”という言葉に置き換えられています。最終段階に至る道筋は様々で、自分では選べないこともあります。自分で選択可能なこともあります。ただ自分一人で考えていても最終段階を迎えるときにその意思が生かされないことも多くあります。病気を持っていて最終段階を迎える人は主治医などに現在の状態、今後の経過をよ

く聞いて、自分の希望を伝えなければなりません。またそのときに家族など自分が判断できなくなったときに代わりに判断を行う人も一緒に話を聞いて今後の生き方をわかってもらう必要があります。持病などが無くても家族など話をしておくことは必要です。

最近ACCD (Advance Care Planning: アドバンス ケア プランニング) という言葉を聞かれることがあると思います。“人生会議”という日本語の愛称がつけられたことをご存じでしょうか？

本人と周りの人たちと自分の価値観、人生の目標、今後の医療に関して共有し合うプロセス(課程)のことをいい、自分が意思決定をできなくなったときに備えて信用できる人または人々を選定しておくことも含まれます。

これは一度決めたらおしまいではなく、健康状態や病態が変化することにより繰り返し行つべきものです。できれば記録に残し、必要になったときに本人が意思表示困難な場合はすぐ参照できるようにすべきです。病気もない健康なときに行われても実感がわかなかつたり、決めたことを忘れてしまつこともあります。しかし、急な体調の悪化もあり得ます。健康なときにこそ考えておくべきだと思います。